

日露青年交流センター
2018年度 日本語教師派遣事業

帰国報告書

ドブロリューボフ記念ニジニー・ノヴゴロド国立言語大学

平井 英太郎

1. 年間業務日程

2018年	8月29日	着任
	9月3日	入学式
	9月6日	前期授業開始
	9月13日	有料講座時間割打ち合わせ
	10月1日	オープンキャンパス
	11月18日	アニメ・漫画愛好者イベント「アニマニア」
	12月30日～1月8日	冬期休暇
2019年	1月21日～2月10日	試験期間（有料講座は普段通り授業）
	2月11日	後期授業開始（1年生は職業実習のため3月から）
	3月23日	『文化祭』
	4月13日	第13回沿ヴォルガ日本語弁論大会
	6月7日	後期授業終了
	6月10日～	試験期間、夏期休暇

2. 赴任校の概要

大学名：ドブロリューボフ記念ニジニー・ノヴゴロド国立言語大学

Нижегородский государственный лингвистический университет им. Н. А. Добролюбова

Linguistics University of Nizhny Novgorod

学部・学科名：通訳翻訳学部 ヨーロッパ・東洋言語学科 海外地域研究（日本語）

Переводический факультет, кафедра восточных и европейских языков

《Зарубежное регионоведение японский язык》

日本語教育部門（有料講座）：日本文化教育センター

Японский культурно-образовательный центр

Japanese cultural educational center

所在地：

Россия, 603155 г. Нижний Новгород, ул. Минина 31а

31a, ul. Minina, Nizhny Novgorod, 603155 Russia

連絡先：日本文化教育センター

TEL:(831)436-18-40 FAX:(831)436-20-49 E-mail:sakura@lunn.ru

日本語コース設置年：1986年

日本語専攻設置年：2014年

日本語コース・日本語専攻責任者：

日本文化教育センター所長 コストロヴァ・マリア・アレクセーエヴナ

Кострова Мария Алексеевна / Kostrova Maria Alekseyevna

日本語コースカリキュラム：大学で行われている日本語の授業は大きく分けて3種類。

1. 通訳翻訳学部海外地域研究 日本語専攻

派遣先大学における業務でメインとなる日本語授業。日本語を主専攻とする学生を対象とする。

2. 選択科目

日本語を主専攻としない学生のための、選択科目としての日本語授業。今年度は代行も含め、報告者が授業を担当することは無かった。

3. 有料講座

大学が一般向けに開講している外国語講座。一般市民向けの講座ゆえ、年齢層は非常に幅広い。1年生から5年生までであるが、今年度は昨年度と同じく4年生と5年生の人数が少なかったため、この両学年を合同して『中級』クラスとして開講された。

日本語履修学生数：合計131名

・大学通訳翻訳学部

1年生 25名（101aクラス12名、1016クラス13名）

2年生 26名

3年生 12名

4年生 17名

・選択外国語 11名

・有料講座

1年 18名（Ольга Дубовская 先生クラス8名、Танзиля Гильмутдинова 先生クラス10名）

2年 12名

3年 6名

中級 4名

日本語履修学生のレベル：

大学通訳翻訳学部

1年生：初級前半

2年生：初級後半

3年生：中級

有料講座（一般公開講座）

1～3年生：初級

4、5年生：中級（N3～N2）

日本語教師数：

ロシア人教師6名（大学の常勤講師3名、有料講座のみ担当する講師3名）

日本人教師1名（報告者）

日本語履修学生の卒業後の進路：今年度の卒業生の進路は未定だが、昨年度の卒業生の多くは大学院に進学したか、派遣先大学や地元の語学学校で日本語講師をしている。他に日本語に関係する進路に進んだ者は、報告者の知る限りではない。

3. 赴任者の日本語教育業務

学年・年間のシラバス

【通訳翻訳学部日本語専攻1年生】

授業数：90分×1コマ/週（通年）

教材：J Bridge for Beginners vol.1, みんなの日本語、その他

学生数：25名

評価：ロシア人教師の授業の成績や試験の結果を総合して評価が出る。

活動：ロシア人教師が進めた文法範囲の定着を図るため、復習となるような活動を行う。

所見：昨年的一年生（現二年生）よりも日本文化に対する関心や情熱が強く感じられ、親しみが持てる。一方で、日本語学習に対しては、残念ながら情熱に見合った努力の足りていない学生も散見される。

【通訳翻訳学部日本語専攻2年生】

授業数：90分×4コマ/週（通年）

教材：新中級の日本語、その他

学生数：26名

評価：ロシア人教師の授業の成績や試験の結果を総合して評価が出る。

活動：Aクラスについては報告者がほぼ全面的に担任した。Bクラスは昨年度と同じく、ロシア人教師の指示に従った授業を行った。

所見：Aクラスについてはカリキュラムを作成するコストロヴァ准教授と報告者との情報共有・連携がうまくいかなかったため、著しく学生に混乱を与えてしまった。その一方で2年生のカリキュラムについて把握できたので、来年度もクラスを担当することがあっても、同じような混乱を来さないよう努力できるはずである。

【有料講座1年生（2クラス）】

年間授業数：年間10コマ（約1コマ／3週）（1コマ＝90分）

教材：J Bridge for Beginners vol.1, みんなの日本語初級Ⅰ、その他

学生数：Ольга Дубовская 先生クラス8名、Танзиля Гильмутдинова 先生クラス10名

活動：基本的にはロシア人教師が教えた範囲を会話練習によって復習している。

評価：学期末にロシア人教師が作成した筆記試験を実施し、その成績で進級させるかどうかを決める。

所見：昨年度より授業態度の悪い生徒が増えた気がする。とはいえ、リタイアせずに残った生徒たちは総じて日本語レベルの達成度だけでなく、授業態度の面でも良い者が多いので、そうした生徒たちが残ってくれて良かったと思う。

【有料講座2年生】

年間授業数：年間10コマ（約1コマ／3週）（1コマ＝90分）

教材：J Bridge for Beginners vol.2, みんなの日本語初級Ⅱ、その他

学生数：12名

活動：基本的にはロシア人教師が教えた範囲を会話練習によって復習している。

評価：学期末にロシア人教師が作成した筆記試験を実施し、その成績で進級させるかどうかを決める。

所見：脱落者も出たが、基本的に良いクラスだった。交流という面では最も馴染みの薄いグループではあるが、関係が悪いわけでもなく、現在の距離感をキープ、もしくは縮めていきたいと思う。

【有料講座3年生】

年間授業数：年間10コマ（約1コマ／3週）（1コマ＝90分）

教材：J Bridge for Beginners vol.2, みんなの日本語初級Ⅱ、その他

学生数：6名

活動：基本的にはロシア人教師が教えた範囲を会話練習によって復習している。

評価：学期末にロシア人教師が作成した筆記試験を実施し、その成績で進級させるかどうかを決める。

所見：語学レベル・日本に対する関心・報告者との交流、全てにおいて良いグループだった。6名全員が次学年への進級を望んでおり、来年度が楽しみである。

【有料講座中級】

年間授業数：年間60コマ（約2コマ/週）（1コマ=90分）

教材：JBridge Intermediate、Intermediate Kanji Book、文化中級日本語、ニュースで学ぶ日本語、インタビューで学ぶ日本語、その他

学生数：4名

活動：教科書は主に JBridge Intermediate を使用し、のちに『インタビューで学ぶ日本語』に移行した。

評価：日本人教師（報告者）が作成した漢字の筆記試験と講座の最後に実施したスピーチ大会の成績によって評価を与えた。

所見：クラス開始時の生徒間のレベル差が著しく、とうとう最後まで解消することはできなかった。ボキャブラリーに圧倒的な差があったため、毎日語彙に関する宿題を出し、少しでも差を埋めようと努力はしたものの、実際の運用を離れた語彙の詰め込みのようになってしまったと反省している。

課外指導

・沿ヴォルガ地方日本語弁論大会出場者の作文指導、発表指導（3月末～4月13日）

反省点と今後の展望

最大の反省点はやはり、学部二年生の自身の担任クラスの授業において、カリキュラムを作成するコストロヴァ准教授との連携・情報共有がうまくいかなかったために学生に大いに混乱をもたらしたことである。もっとも、あまり人のせいにはしたくないが、自分だけに反省点を求めるにも限度がある。月の半ば近くになって初めてその月のカリキュラムや学生が達成すべき課題などについて知らされることすらあった。ただ、二年生のカリキュラムについては今年度よく把握でき、一年生についても二年に渡る派遣で使用教材の内容等について把握ができていたので、来年度同じように一つのクラスを担当することとなっても、何とか対応できるだろう。

有料講座については中級クラスで最後まで生徒間のレベル格差を解消できなかったのが残念ではあるが、これも自分だけに原因を求めるには限界がある。レベルの高い2人の生徒のうち1人は学習歴8年で、1人はレベルの低い残りの生徒と同じく3年ではあるものの、派遣先大学の日本語主専攻の学生であり、学習時間数があまりにも違い過ぎた。ドロップアウトが出て、生徒が二人だけという事態は避けたかったので、何とか

ついてこさせることには成功したが、なかなか難しい舵取りとなった。

4. その他の業務

・第13回文化祭（3月23日）

大学の日本センター主催で行われる日本に関する小さいイベントで、一般の入場もできる。今年は少林寺拳法道場のパフォーマンスがあった後、各種ワークショップが行われた。なお、報告者は和風ごまドレッシングの作り方についてのワークショップを担当した。

・第13回沿ヴォルガ弁論大会（4月13日）

運営上は決して悪くない弁論大会になったと思う。来年は出場者の増加に期待したい。

5. 青年交流

・日本文化イベント「アニマニア」（11月18日）

ニジニー・ノヴゴロド市のアニメ・漫画愛好者たちによるイベント。2日間行ううちの1日目は文化宮殿（Дворец Культуры）で行われ、2日目は大学がスペースを貸している。イベントの内容は各種ワークショップで、報告者は将棋教室を担当した。

・日本語会話クラブ「虹の会」

ニジニー・ノヴゴロド日本センターで定期的に行われるイベント。ニジニー・ノヴゴロド在住の日本人（大部分は日本企業の駐在員）と日本語学習者のロシア人が集まり、2時間ほど会話やゲームをする。日本センターとしてはこの会の運営について、日本人はできるだけタッチせずロシア人の自治に任せたいとのことで、そのプロセスが進行中である。

・児童図書館でのイベント（2月21日）

ニジニーノヴゴロド市内の児童図書館で世界各国の言語について紹介するイベントが行われたので参加した。報告者は韓国語を個人的に学習している学生を連れて、アジア各国語の音韻の違いに関するちょっとした講義をした後、カタカナで自分の名前を書くというワークショップを実施した。

・将棋クラブの設立（4月13日～）

日本語専攻の学生の一人に将棋を教えたところ、大変気に入ってくれたため、彼のイニシアティヴで将棋部を創設することになった。将棋盤が足りないため、宣伝に打ち出せ

ないこともあり、現在アクティブに参加しているのは報告者を含め4名だけだが、日本から将棋盤を持っていき、来年度は規模を拡大していきたい。

6. 任地での生活事情

電気：問題なし。

水：近所での工事のために水が止まったり、茶色い水が出るのがしばしばあった。

温水：問題なし。

暖房：春になってもなかなか暖房が切られず、暑く感じるが多かった。

生活必需品：寮から徒歩二分の位置に小さなスーパー、バスで二十分の位置に大きなショッピングモールがあり、不便を感じることはなかった。

衣類：前述のショッピングモールには衣料品店も充実している。

食料：前述のショッピングモールで豆腐や（韓国）海苔も手に入る。日本食品を販売している店を発見したので、カレーや味噌も入手できるようになった。ただ、鰹節やみりんといった和食に必要な調味料はやはりない。

住居：大学の寮に住んでいる。通勤五分と非常に便利。六畳ほどの二人部屋に一人で住んでいる。シャワー・トイレ・キッチンが共同。

交通の便：大学が街の中心部にあるため、交通の便は非常に良い。バス、マルシルートカ、トラム、地下鉄がある。運賃は現在28ルーブル。

物価：モスクワに比べると安い。

治安状況：今年度は恐喝に遭ったことがあったが、幸い相手は暴力に訴えてくることはなかった。また、恐喝ではないが、路上で好戦的な中年男性に「ロシアが好きでないならロシアから出ていけ」と絡まれるなど、アグレッシブな態度に遭遇することが昨年度より多かった気がする。反中感情が高まっているのだろうか。

通信：Yotaのモデムによってインターネットに接続し、PCを使用している。

7. 終わりに

私生活では良いこともあり、ロシア語のレベルも向上した反面、ロシアの負の面も大いに目に飛び込んでくるようになり、職場でも日常生活でも不愉快な体験をすることが非常に増えてきた一年となった。派遣継続希望の提出の際も昨年ほどにはすぐにロシアに残りたいと感ずることができず、多少の迷いを覚えたものの、やはり派遣を継続させていただくことに決めた。マイナスの面ばかりを見るのではなく、プラスの面にも目を向け、最後の一年を頑張っていきたいと考えている。